

## 採点・評価基準(具体的基準)

教科・科目名	小論文（前期日程試験：令和8年度） 1 / 2	問題番号	S7
対象学部・学科(課程)等	情報学部（情報社会学科）		
出題のねらい	<p>1</p> <p>近年、ソーシャルメディアの進展などにより、人々の情報収集手段は多様化している。一方で、インターネット上での偽・誤情報の流通は、情報やメディアへの信頼に関する問題を生じさせている。このような現状を受けて、情報収集手段としてのメディアに対する態度や信頼について、世代別・国別のデータの差異に着目して若者世代の特徴を読み取る力を問うことが本設問の第1のねらいである。また、読み取った結果から、現在のメディアに対する態度にどのような課題があると考えられるかを具体的に提示する能力を問うことが第2のねらいである。全体を通じて、情報収集手段としてのメディアについて議論を展開する能力を問う。</p>		
採点基準 (点数は200点満点の場合)	<p>1 (配点40%) (80点)</p> <p>小論文の作成にあたっては、与えられた図表1～図表3を正しく読み取ることが求められる。まず、各図表の内容について、設問文及び各図表のタイトルや出典情報から理解する必要がある。その上で、回答結果について、回答全体の傾向はどのようなものか、若者世代は他の世代と比較してどのような特徴があるか、情報の発信源に対する確認頻度について日本はどのような特徴があるかに着目する必要がある。</p> <p>(1) 図表1から、情報源として欠かせないメディアの年代別の相違を読み取れているか。</p> <p>(2) 図表2から、各メディアへの信頼度が年代別にどのように異なっているのかを読み取れているか。</p> <p>(3) 図表3から、情報の発信源の確認方法について日本が他国と比較してどのような状況となっているのかを読み取れているか。</p> <p>(4) 上述した(1)～(3)を踏まえて、日本の若者世代の情報収集の在り方やメディアへの信頼についてまとめるとともに、その課題を論じているか。</p> <p>図表から読み取れることが多いため必ずしも上記すべてを満たす必要はないが、限られた字数のなかで、状況把握から課題の考察まで一貫した論理展開ができているかを評価する。</p>		

## 採点・評価基準(具体的基準)

教科・科目名	小論文 (前期日程試験：令和8年度) 2/2	問題番号	S7
対象学部・学科(課程)等	情報学部 (情報社会学科)		
出題のねらい	<p>②</p> <p>自己の多元化について論じている課題文を読み、著者の論点を正確に把握しつつ、オンライン・コミュニケーションと自己の関係性について、自分の経験に引きつけながら、自ら考える力そしてその考えを適切に表現する力を問う。</p>		
採点基準 (点数は200点満点の場合)	<p>② (配点60%) (120点)</p> <p>問1 著者の論点を正確に把握し、それを的確に説明することができていることが求められる。著者はガーゲンの指摘を踏まえて、人々はどのような自己であるべきなのかがわからずに「めまい」がするような状態に放り込まれることを「ポストモダン」と整理している。このような社会的状況としての「ポストモダン」を、本文内の語句を用いて的確に記述しているかを評価する。 (20%) (40点)</p> <p>問2 オンライン・コミュニケーションが日常化した現代において、自己の在り方を社会的に検討する著者の論点を理解したうえで、それをどのように考えるのかについて、本文を適切に引用し、自らの経験に引きつけながら考察することが求められる。こうした考察を通じて、論理的思考力、自己の多元化に関する意識、観点の独創性や的確さを評価する。 (40%) (80点)</p>		